

官吏ノ政黨ニ加入スルノ事件質問

ボアンナート氏  
リヨースレル氏  
パテルノストロ氏  
モスターフ氏





文武ノ官吏ハ公然政黨ニ加入スルヲ得ヘキモノナルヤ  
其拒否ニ付テノ得失如何  
歐洲諸國ニ於テ文武ノ官吏ニテ政黨ニ加入スル  
ニ付制限ニタル法律アリヤ若シ制限アリトセハ其  
程度ハ如何  
法律上ノ制限ナキ中ハ是等官吏ノ政黨ニ加入スル  
ノ実況如何  
右貴下ノ御意見即報道被下候ハ、辱存候也

尾崎三良



答

ボアソナード氏

法制局長官閣下

御下問に對し乍ハ縁ノ佛國ニ關スル事ニ非サ

レハ精確ノ答ヲ為スコト能ハサルヲ謹謝ス

歐米諸國ニ行ル、事ハ貴局冬事官英米獨ノ

語ニ通スル者若クハ外國ニ駐劄スル貴國ノ公使ニ

非サレハ精確ノ答ヲ為ス能ハサルトシ

佛國ニ於テハ公然政治ニ挿嘴スルコトヲ禁スルハ

現役武官ニ限ル現役武官ハ議員選舉ニ當

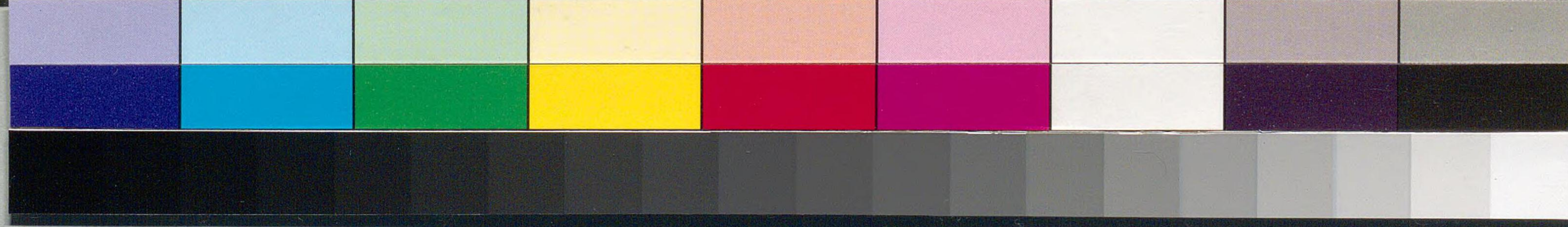
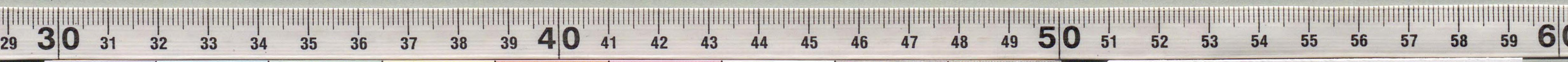


リ投票を為スコトヲ得ス(選挙法第二條參看)故  
ニ被選挙人選挙會ニ列スルコトヲ得ス然レトモ現役  
武友ハ政治ニ関スル著述ヲ世ニ公ニスルコトヲ禁  
スルヤ否ヤハ予ノ断言スル能ハカル所ナリト雖モ  
軍事上ノ問題ニ就テハ陸軍大臣ノ許可ヲ得  
スニテ著述ヲ爲スコト能ハサルハ明文ノ禁ニスル  
所ナリ

司法行政及教育ノ任ニアル官吏ハ政治ニ関シ  
明文ノ以テ制限ヲ置キタルモノナシ是ヲ以テ舊  
選禁年人タルコトヲ許スノコトナラス或ハ政談會

ニ列席シ或ハ又公會ニ於テ政談ヲ為スコトヲ  
得

然レトモ自ラ赴カサルヲ通例トス  
若シ公會ニ臨ミ現時ノ制度ニ反對論ヲ唱ヘ  
若クハ政府ノ行爲ヲ非難スルトキハ懲戒ヲ受クヘ  
ク其終身友ニ非サル者ハ能免セラレヘシ  
文武友ハ被選人タルコトヲ得サルヲ通例トス  
但シ或ハ高等ノ官吏ハ被選人タルコトヲ得  
ルハ武友ニ政黨ニ入ルコトヲ禁ニスルハ妨ケナキノ  
コトナラス寧ろ必要ナリト雖モ文官ニ之ヲ禁





セサルハ敢テ實際上一ノ官ナキモノト信ス重大  
ノ理由アルニ非サレハ文官ノ選舉權ニ制限  
ヲ設クハカラス  
文官ノ非被選ニ就テハ其友等ノ昇進ヲ  
得ニトスルノ意ニ出ルノ恐ナキヲ保セサルハ故  
ニ強チ關係ナシト云フ可カラズ  
第七十二條ニ依リ日本ニ於テハ同族及ニ政  
治ニ干渉スルコトヲ禁スト雖モ予ハ選舉人  
タリ被選人タルコトヲ禁セサルモノト信ス何  
トナレハ其政治ニ干渉スルコトヲ得サルハ其

裁判官タル資格アル間ニ限レハナリ

千八百九十二年三月三日於神奈川

ホアソナード

尾崎法制局長官殿



リヨースレル氏  
官吏ハ其官吏タル資格ニ於テ憲法上臣民ニ付  
與セラル、公権ヲ有スルカ故ニ彼輩ニ向テ政党  
ニ加入スルコトヲ禁止スルヲ得ス政党ニ加入スル  
ノ權利ハ法律上決シテ一ノ特別公権タルニア  
ラサルモ普通思想ヲ公ニ表告スルノ權利并  
ニ結社權及集會權ノ意義中ニ包含スルモ  
ノナリ然レトモ官吏ハ特別ノ職務上ノ義務  
アリテ公権ノ執行ハ此義務ノ爲メニ幾分ノ  
制限ヲ受クルコト世間一般ニ認定スル所ナリ然



リ而シテ官吏ハ其職務上ノ宣誓ニ依リ若クハ  
宣誓制度ノ成立セサル場合ニ於テハ其職務  
ノ性質ニ依リ憲法ヲ遵守スルノ義務ヲ負フ  
ヲ以テ苟モ憲法ニ背反スル政治上ノ目的ニハ  
公然從事スルコトヲ得ヘカラス又官吏ハ國權即  
チ憲法上主權者ノ特有ニ屬シ且ツ其責任上ノ  
執行ハ主權者ヨリ大臣ニ委任セラル、國權ノ  
隸屬的代表者ナルヲ以テ凡ソ直接ニ憲法ニ  
背反スルノ目的ヲ追ヒ又ハ現行立憲憲法ヲ破  
滅シ共和政体ヲ施行シ若クハ名譽所有權等現

行法規、基礎ヲ破壊スルノ目的ヲ追ヒ或ハ主義  
上現政府ニ反抗ヲ爲シ且ツ公然ノ運動ニ依リ政  
府ノ顛覆ヲ謀ルカ如キノ政黨ニ加入スルヲ得ヘカ  
ラス尤モ政府ニ反抗スルノ件ニ付テハ自由主義  
ノ論者常ニ陳辯シテ曰ク此反抗ハ當時ノ大  
臣ニ對シテ爲スモノニシテ決シテ主權者ニ對シテ  
反抗スルマアラスト然レトモ此區別ハ毫モ實  
際上大ナル價値ヲ有セサルモノナリ抑モ官  
吏ハ其職務上ノ地位ニ依リ時々主權者ヨ  
リ組織セラル、政府ニ隸屬スルモノナリ而シ



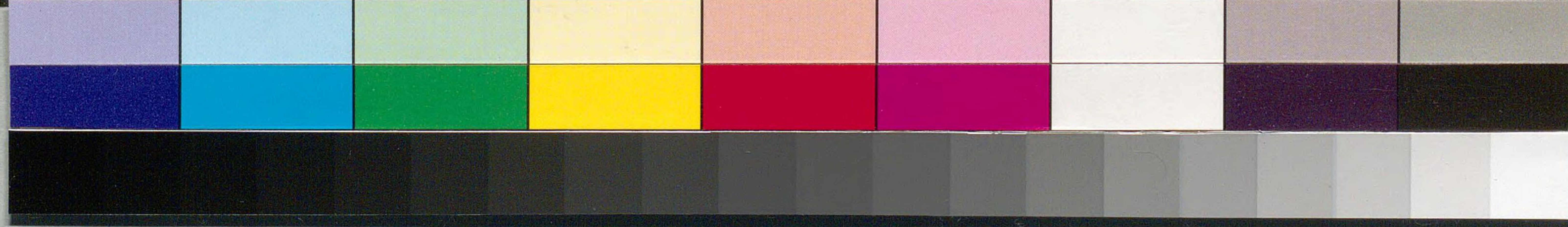
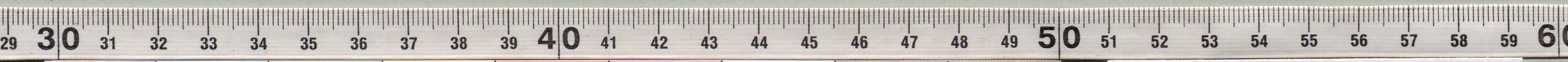
テ政府、對スル反抗ノ目的ハ專ラ其權威及  
自由作動ヲ毀損ス且ツ大臣ノ任意選任スル  
主權者ノ憲法上ノ權利ヲ奪ハント欲スルニ  
在ルナリ以上ノ原則ハ則チ帝國ニ於テ認定セ  
ル所ニシテ彼ノ政治上大騒動ノ當時政府ハ  
公然之ヲ表告且ツ執行ニ先王維爾モ亦官吏ハ  
其政府ニ對シテ公然反抗ヲ爲スヘキ權利ヲ有セ  
サルコトヲ公ニ明言シタリ帝國田高等法院ノ千  
八百九十三年九月十日ノ判決ニ於テハ現政府ニ  
對スル公然ノ攻撃及運動ニ參與スルノ所爲

ハ官吏カ其反叛ニ依リ負フ所ノ義務ヲ犯スモ  
ノナリト斷言シ又千八百九十四年十月五日ノ判  
決ニ於テハ官吏ニシテ若シ政府ノ發表スル意  
見ニ反對シ且ツ人民ニ政府ノ不信用ヲ促シ  
又ハ政府ノ意思見ノ實施ニ對スル妨害ヲ爲ス  
ニ於テハ是レ其職務上ノ義務ヲ犯スモノナリト  
確認シ其他千八百九十五年十月五日ノ判決  
ニ於テハ官吏ガ其政治上ノ意思見ヲ公然表  
告シテ國權ノ作用ヲ妨害スルニ於テハ是レ懲戒  
法ニ北月及スルモノナリト判定シタリ此等ノ原



別ハ官吏ハ主權者ニ向テハ其職務上ノ元首ト  
シテ特別ノ忠誠ヲ致ス（キ）義務ヲ負ヒ且ツ其  
個人的私見ヲ除ク外ハ苟モ主權者ノ組織ニ  
ル政府ヲ妨ケ又ハ動搖スルカ如キコトハ決シテ  
公然者スヘカラストノ觀念ニ基ツクモノナ  
リ帝國ノ義務宣誓ニ於テハ國王ニ對スル忠誠  
ナル諸特別ニ存スルナリ其他ニ於テモ其應ニ  
然ルヘキコト敢テ言フ訣タサルナリ（リヨン不字  
国々法論第三卷第二百八章第五項）  
吾人ハ以上ノ理由ニ從ヒ凡ソ官吏タル者ハ直

接ニ過激ナル破壊主義ヲ唱ヘ又ハ公然ノ行為  
ニ依リ及其運動ニ依リ現政府ニ對シ毀害的  
ノ目的ヲ追ヒ且ツ人民ニ對スル政府ノ信用ヲ毀損  
セシコトヲ謀ルノ政社ニ加入シ得ヘカラスルコ  
トヲ總定シ得ルナリ余ノ所觀ニ據ルニ官  
吏ハ其他ノ政社又ハ政黨ニ加入スルヲ得（キ）  
モ常ニ政府ニ對スル公然ノ毀害的反對黨ニ  
加入スルコトハ其義務トシテ避ケサルヘカラ  
ス實ニ政府ノ措置ニ付キ誠忠ニ且事實的ニ  
批評スルモ尚ホ其例外ニアラサルナリ之ヲ要

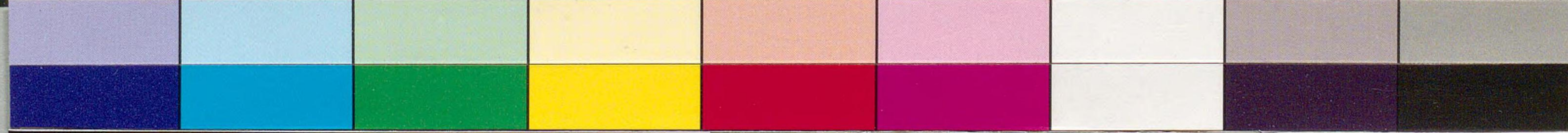
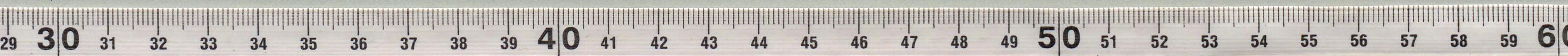




スルニ余輩ノ所觀ニ於テハ何處ニ於テモ官吏ハ  
種々ノ政黨即チ改進黨ノ政黨ニモ亦保守的政  
黨ニモ加入スルナリ而シテ官吏ニ拘テハ必定許ス  
ヘカウガル前記ノ過激黨ノ外政黨加入ニ付  
テハ別其長官ヨリ牽制セラルコトナシ  
余ハ未タ曾テ官吏ノ政黨加入ヲ直接ニ禁止  
セタルノ法律アルヲ知ラス思フニ蓋シ斯ノ如キ法  
律ノ現存スルモノアラサルヘシ此事項タル官吏  
懲戒法ノ範圍内ニ屬シ隨テ吾人カ官吏ノ  
懲戒法上ノ義務ニ就テ下ス所ノ解狀ニ依ル



ヘキナリ故ニ此關係上官吏ニ許セタル制限ヲ超  
スルノ所爲ハ懲戒法違反ノ所爲ヲ以テ認定  
シ且ツ官吏懲戒法ニ從テ處分スヘキモノナリトス  
差シ夫レ此件ニ關シテ特ニ法律上ノ規定ヲ  
設ケントモハ須ラシク之ヲ以テ懲戒法ノ補ルル  
規定ト認定スヘキナリ  
今独逸各國ノ實況ニ付余ノ知レル所ヲ舉クニ  
ハ以上論記ニタル各原則ハ各國政府ノ主張  
ニタル所ニモテ平時ニ在テハ實際上官吏ニ著大  
ナル自由ヲ與ララレニ拘ラス政治上ノ危殆的騷





擾ノ當時ニ於テハ各官吏ニ對シテ堅ク該原則  
ヲ実行セラシタリキ自由主義ノ政論者カ類  
リニ該原則ヲ攻撃シ官吏ノ普通ノ政治上ノ  
權利ハ其特ニ有ナル政務上ノ責任ノ上ニ置  
カサルヘカラスト論スルハ余ノ所觀ニ於テハ  
甚ク其當リ得ルノ説ナリトス

以上ノ注意ハ專ラ文官ニ關スル所ニシテ軍屬  
ノ官吏及武官ニ向テハ一層嚴正ナル徹底戒定  
アリテ余ノ知所ニ據ル該想定ハ殆テ公然政  
治上ノ運動ニ多ク其ノ政黨ニ加入スルコトヲ禁



止セリ独逸國ニ於テハ軍屬ノ官吏及武官  
ハ實際政治上ノ行為ニ公然多ク其ノコトナシ  
以上ノ原則ニ依ル官吏ノ義務ハ唯帝國議  
會外ニ於テハ其行為ニ關シテハ成之スルコト  
ハ論ヲ該タス帝國議會ノ内部ニ於テハ官吏  
縱令何等ノ攻撃ヲ爲スモ政府ハ之ヲ妨ケ又ハ  
罰スルコトヲ得ヘカラス然レトモ議會内ニ於テハ官  
吏ノ行為ハ唯其議會ニ於ケル言論ニ付テハ議  
會外ニ向テ責任ヲ負フコトナシト云フノ特權  
ニ基クニ過キ不足ヲ以テ帝國議會ノ議員



タル官吏ハ縦令議會内ニ於テ政府ヲ攻撃  
スルコトヲ得ルモ直モ之カ爲メニ延井テ其  
連法ノ政黨加入ノ行爲ヲモ無罪ナリト云  
フヲ得ヘカラス何トナシハ該政黨加入ノ行  
爲ハ決モテ單ニ帝國議會ノ内部ノミニ  
限ルノ件ニアラサレハナリ

千八百九十二年二月四日 ドネルハリヨースル

パテルノストロ口氏意見

文官ノ權利及義務ニ関シ何右利國ニ於テ議會  
ニ附セラレタル法案ニハ文官ハ政社組織ノ政黨  
員タルコトヲ得サルノ規定ナレトモ例ハハ  
文官ハ他ノ職業ニ就クコトヲ得スルノ制限ハ之  
レアリ此職業ナル文字ハ議會ノ討論理由書  
及政改新聞ノ誌スル所等ニ據テ之ヲ見ルニ此  
職業ナル文字ハ其照譯スルニ範圍明ナラス然  
レモ官吏ニシテ立憲君主政体、國家ノ統一ニ反  
對ノ意見ヲ公然發表スル者又ハ國王王族議院



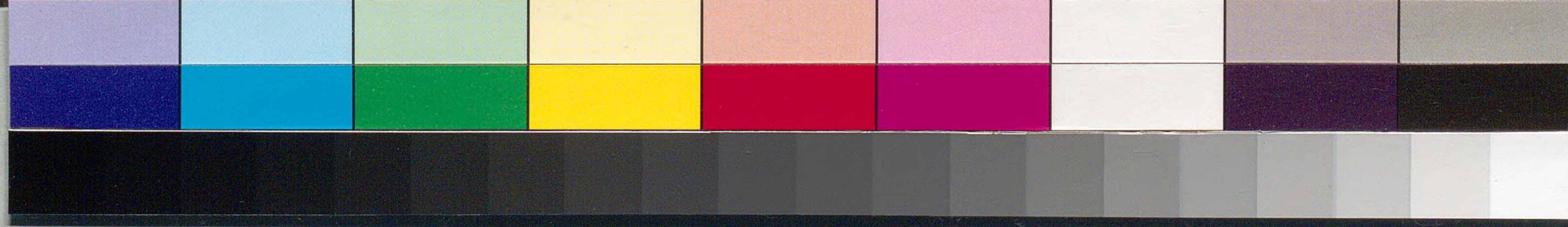
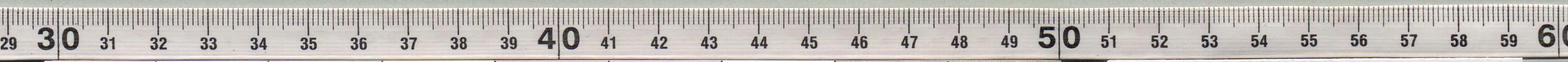
ヲ羨倭スル者或ハ又其配下官吏ニ此行書アル  
ヲ咎メスレテ責怒スル者ハ之ヲ能免スルナリ  
官吏ハ公民タルノ資格ト官吏タルノ資格ト  
アリ公民トシテハ公益ニ関シ意見ヲ有スルノ  
權利及義務アリ而シテ其良心ト其決断ニ從テ  
爲ス所ノ投票ハ之ヲ妨クハカラス否妨クルヲ得ス  
然レハ一方ニ從テハ其官吏タルノ資格アルヲ以テ  
政熱ニ誘導セラレハカラスノ義務アリ何  
トナレハ之レカ爲メ其偏頗ニ陷ラサルヤノ疑  
ヲ生シ其義務ニ怠リテ生セサルヤノ疑ヲ束

タスコトナキ能ハサレハナリ是ヲ以テ我伊用  
ニ於テルカ如ク独逸佛蘭西自存義ニ於テモ  
理論上實際上官吏政治上ノ意見ヲ有スルコト  
自由ニテ自由ニ投票ヲ爲スコトヲ得ト雖モ  
競争場裡ニ奔馳シ或ハ政府ノ爲メ或ハ反對党  
ノ爲メ政治的競争ノ境ニトナル可ラス一言以  
テ之ヲ掩フ曰ク官吏ハ自動的政治ヲ爲ス可カ  
ラス予ハ法律ノ明文ヲ引テ之ヲ證スルコトヲ  
得カレテ謝ス何トナレハ例ハ独逸帝國官吏  
ニ關スル千八百七十二年三月三十一日ノ法律アリ



ト雖也 政黨ニ加入スルコトヲ禁スルノ條文  
アリヤ否ヤハ今予之ヲ断言スルコトヲ得  
サレハナリ然レモ官吏ハ政治新聞記者タル  
コトヲ得サルハ疑ヲ容レサル所ナリ何トナレハ  
紀律ノ之レカ爲メニ揺撼セラレシ事件ノ秘密之  
レカ爲メニ破ルヲ以テ官吏タルノ義務ト政治  
家タルノ勸作トハ余ク氷炭相容レサルモノナレハ  
ナリ然レモ政權ヲ執行スルコトヲ得ラスト云フニハ  
アラス例ハハ伊國ニ於テハ官吏ニシテ議員  
タルヲ得ルノ數ニ限リナリ且或種ノ官吏ニ限

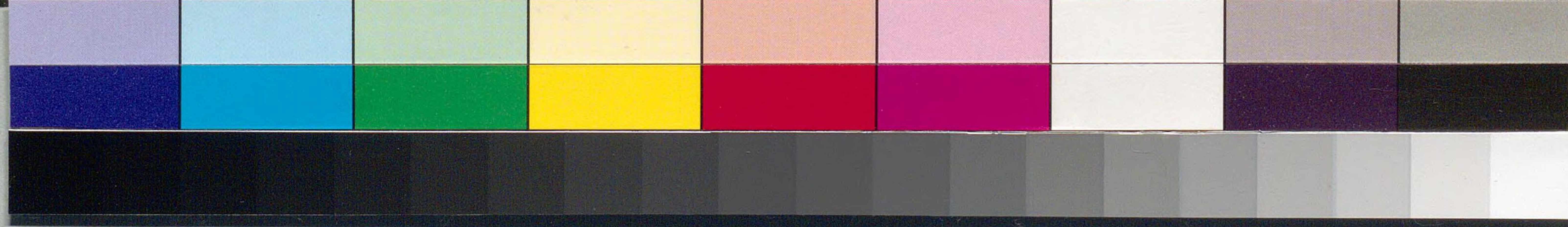
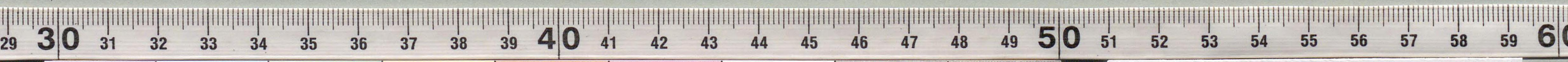
ル等ノ制限アリト雖也 德國ニ於テハ官吏ハ  
悉ク被選資格ヲ有ス蓋シ行爲ノ自由ハ政權ノ  
執行ヨリ生スルモノナルカ故ニ被選權ヲ其ハ及  
ヒ或レ政黨ニ屬スルハ權ヲ制限ス或レ選舉  
ニ關スル告示書ヲ作り或レ選舉人ヲ集メテ演  
説スル等ハ之ヲ是認ス可ラス故ニ予ハ公民タ  
ル權利ト官吏タルノ義務トヲ調和セトスルハ実  
ニ至難ノ事ナリ予ハ偏ニ政治慣行行政教育  
等ノ力ニ寄テラステハ能ハスト信ス伊國ニ於テ  
ハ官吏ハ政黨タルコトヲ得ト雖也 新聞紙





者タルコトヲ得ス政黨員トナリ議員ト列スル  
コトヲ得ト雖も官吏ニシテ現制度ニ反對スル政  
士タルハ之ヲ許サス若シ之ヲ有ストキハ該官  
吏ハ遣責スラ妻タヘケ又ハ轉任セシメラルヘシ  
予ハ法律ノ條章ヲ以テスルヨリモ密キハ風  
習ヲ以テ行政權監督ノ標準定ムルヲ得  
ニコトヲ冀ハフモノナリ  
官吏ノ政黨ニ干係スルコトヲ制限セサルト  
キハ如何ナル弊害アル乎

予ハ例ヲ舉テ此ノ問ヲ答ヘシ此米合衆國ニ於  
テハ政府ニ立ツノ黨派ハ必ズ前政府ノ諸官吏  
ヲ悉ク罷免スル由故ニ不偏不黨ノ心ヲ以テ官  
吏タルノ義務ヲ盡サントスル者ニ對シテモ毫  
モ之ヲ擔保スルモノナシ是レ豈ニ公益ヲ成シ  
スルモノニアラスニテ何ソヤ  
官吏ヲモテ全ク國家ノ政治ニ干渉セシメサ  
ルトキハ如何ナル弊害アル乎  
此弊害ヤ實ニ重大ナリ行政ハ局東滯





之旧慣ヲ墨守シ毫モ國家ノ進歩ヲ畫ル  
コトヲ知ラス國家全体ノ命脈ノ外ニ超然  
トシテ知ラズ識ラスノ間ニ國家ノ進歩的  
元素ニ反抗シ危険ノ害物トナリ一方ニ於テ  
世人行政府ヲ目シテ威權ヲ以テ下ニ臨ムモノト  
シテ人民ノ利益ヲ計ル自然的管理者トセル  
ノ感ヲ爲サレムルニ至ルニ加旃國家ノ利益ヲ  
此ニ執念ナル忠愛ナル博愛ナル才識アル一團ノ  
人トシテ政治界ノ外ニ驅逐スルハ國家ノ利益ニ  
ラサルヤ又炳然アリ

武官ニ對シテハ紀律ハ最モ嚴格ナルヲ要ス何  
トナレハ武官ノ文官ト異ナル所ハ紀律ノ嚴格  
ナルニ在リ軍紀ノ嚴格ナルハキハ軍制ノ精  
神ナレハナリ我國ニ於テハ軍人ニシテ政治界  
員タルモノヲ見ス但政治上ノ職務ヲ軍務ニ優  
ルトキ替言スレハ軍人ニシテ議員ニ選擧セラ  
レタルトキハ此限ニテ又然レハ軍人ノ地位ハ  
容易ニ断案ヲ下ス能ハサル所ニシテ議員ト  
ル政治上ノ資格ヲ以テ爲シタル行爲ニ對シ軍  
紀ヲ犯スタリトナレバ陸軍大臣之ニ軍紀ヲ適



用ニタルコトアリ

上ニ在タル如ク此等ノ弊非客ハ實際上  
止テ得ガレニ拘ラス軍人ノ教ヲ定メ之ニ被遣令  
ルコトヲ得モ此ハ必要ナリト思考ス何トナシ  
ハ政治界裡ニ秩序忌嫌ノ心ヲ起サシメ  
ス偏重偏輕ヲ束サス秩序的進歩ヲシテ  
其軌道ヲ誤ラサレム之ニ若クモノナケレハナリ

明治廿五年三月五日 ハテルノストロ 敬具

尾崎法制局長官殿

モスターフ氏

余ハ坐右ノ書冊ニ依リ歐洲諸國中法律若クハ  
勅令ヲ以テ文武官吏ノ政令ニ加入スルヲ禁止セル  
モノアルヤヲ探求セリ然レトモ遂ニ如斯ノ法律勅  
令ニアルヲ發見スルコト能ハス(先ツ独逸國ニ於テ  
云フ)惟フニ官吏ハ國信上政令ニ加入スルヲ  
得ルヤ否ヤ若ク又加入スルヲ得ルトセハ其權  
利ノ限度如何ノ設題ハ唯各國ニ於ケル官  
吏ノ普通義務ニ依リテ決スルノ外他ニ途  
ナキナリ而シテ其普通義務ニ關シテハ各

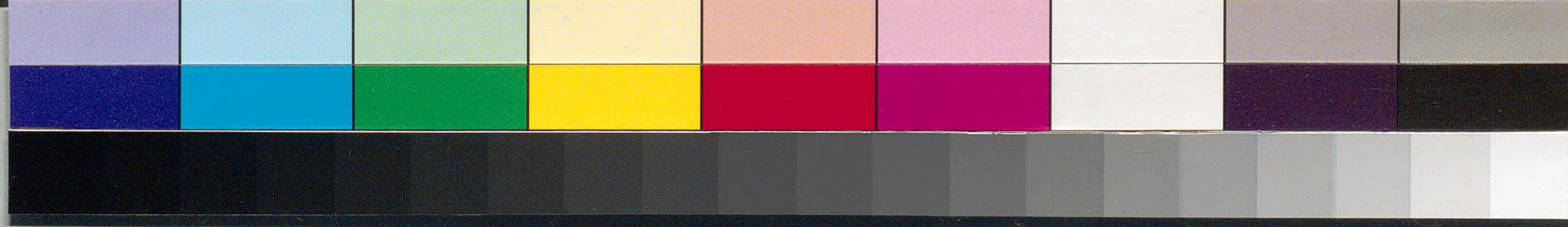


君主國皆ナ其越境ヲ一ニ殆コト異ナルナキ  
カ故ニ下文ニ於テ独逸國ノ官吏職務純律ニ  
就キ論スル所ノモノハ同時ニ他ノ君主國ニ通セ  
シムルヲ得ベシ但自他諸國ニ於ケル法律執行  
上ノ實例及ヒ判決ノ如何ニ至テハ固ヨリ保  
證スルコト能ハス何トナシハ此等ハ各國個々  
特殊ノ狀態ニ從ヒ自ラ變異アルハケレハナ  
リ  
余ハ此ヨリ進ニテ本問題ニ關スル独逸國  
ノ法律ヲ視キ併セテ其解釈ヲ論スベシ本



論ハ軍ニ官吏カ政黨ニ加入スル行為ノニ限ル  
ニアラス苟モ官吏ニテ政治上ノ煽動者  
タル者ハ總テ包含スルモノナリトス

第一 独逸國陸海軍々法第卅九條第二  
項ノ規定ニ依ルニ現役陸海軍々人(士官軍吏  
下官及卒)ハ一切政治上ノ結社及集會ニ加入  
スルコトヲ得サルモノナリトセリ蓋シ其意ハ陸  
海軍々人ヲミテ全ク政治上ニ干渉スルコトナカラ  
シメント欲スルニアリ 國會議員ノ選舉ノ權ヲ  
陸海軍々人ニ剝奪セルカ如キモ同一主義ニ基ク

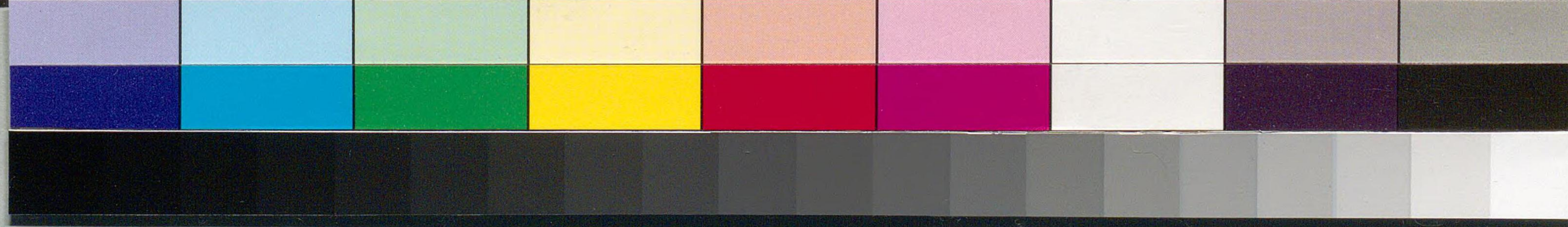
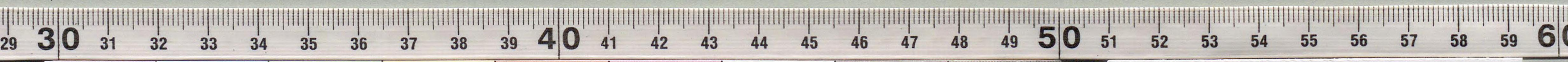




モトス（一千八百八十九年二月十日ノ日本選挙  
法第十五條ヲ参照ス）該禁令ハ各種ノ結  
社及集會ニ適用セラルルモノニテ政府党ノ結  
社又ハ集會ナルト反對党ノ結社又ハ集會ナ  
ルトヲ同ハス然ス者ハ陸海軍刑法及官吏  
懲戒法ニ照シ之ヲ處分ス  
前禁令ハ現役士官ニ適用セラルルニキ  
モノニテ退職士官殊ニ豫備及後備ノ籍ニ  
アル者ハ政治上ノ結社及集會ニ加入スルモ軍律  
上及懲戒上ノ責罰ヲ蒙ルコトナシトス然レモ

ヘキノ舉動アルトキハ榮典裁判所ノ糾  
問ヲ免カルコト能ハスレテ之カ爲メ免責セ  
ラレタルモノ從来數ニトセス

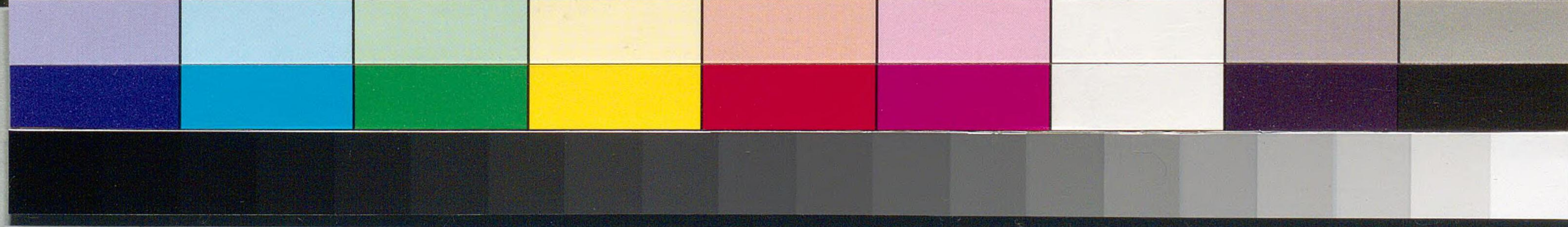
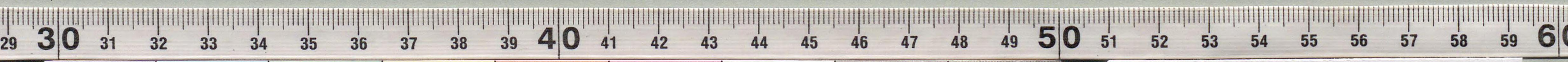
第二 文官ニ對シテハ独逸帝國及各聯  
邦諸國中軍人ニ對スルカ如キノ規定（陸海  
軍々法第四九條第二項ヲ云フ）存スルニキカ故  
ニ文官ニ關シ本問題ヲ決セントスルニ當リ  
テ官吏義務ノ範圍ニ關スル普通原則ハ  
甚キニ之ヲ推斷セサルカラズ  
独逸帝國官吏職務純律第十條以下ノ規





定ニ依ルニ官吏ノ義務ハ別ツテ二種ト爲ス  
ヲ得ヘシハ一ハ官吏タル者ニ於ケル一般ノ義  
務ニシテハ一定ノ義務ニ限リ附随セル特殊ノ  
義務ナリトス(各聯邦諸國ノ法律ニ依ルモ亦同也)後者  
ハ本問題ニ關係ナキハ故ニ之ヲ省略ス專ラ前  
者ノモニ付キ開陳セシムル如シ(誤義務ハ  
非破及懲戒處分中ハ勿論退官後ト雖モ恩給  
ヲ受ケルノ間ハ減セサルモノトス)  
甲 官吏タルノ威嚴ヲ保持スルニ義務  
官吏ハ其出立中ナルト否トニ拘ラス常に其威

格ニ相當セル威嚴ヲ保持スルニ義務ヲ有ス  
(狹義帝國官吏服務規律第十條)素行汚濁  
ニシテ端正謹直ナラサルハ則チ其職務ヲ及  
スルモノナリトス蓋シ官吏其職務ヲ完フセント  
欲セズシテモ之ヲ敬畏尊重信セシムルコト頗  
ル必要ナルヘシレハナリ彼ノ政體加入ノ如キ國  
ヲ行上非議スルキモノアルヲ見スト難モ  
然レトモ政治上ノ集會ニ於テ若クハ出版物  
ニ依リ衆人ヲ煽動スルノ所爲アルニ至ツテハ  
軍ニ謹直ナラサルノミナラス又破綻上ノ義務





皆クモノナリト云ハサル一カラス而シテ其者  
趣ノ政府ヲ保護スルニアルト云トハ敢テ同  
フ所ニアルサルナリ

乙 君主ニ對シ忠順ナルハキ義務

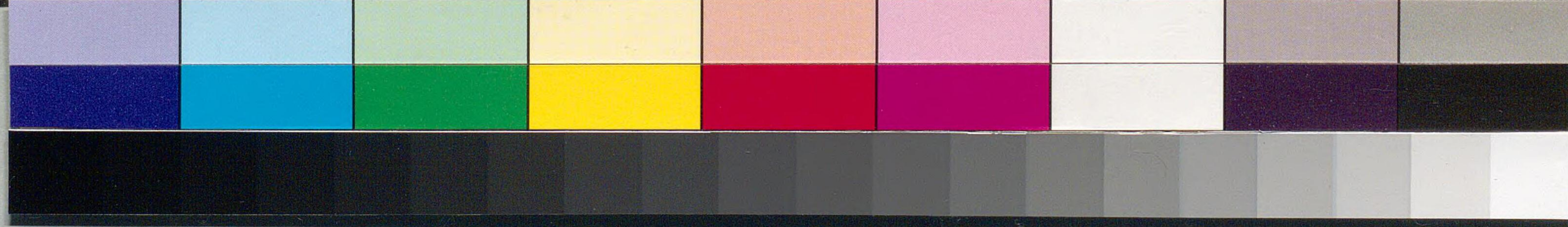
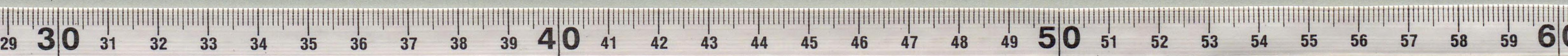
忠順ノ義タル據置ナリ之ニ屬スル各種ノ義務  
ヲ枚擧セシコト得テ爲スヘカラス況ニヤ各人ノ  
心證ニ據リ其見解自ラ異ナルハキニ於テオ  
中唯萬目ノ視テ忠順ナラスト爲ス所ノモノ  
即チ懲戒セラレハキノ行爲ナリトス其範圍ノ  
如キハ性積上一定ニ得ヘカラスコトテ当局者



政略上ノ主義如何ニ依リ廣狹ノ差生ス(キ  
ハ勿論ナリトス但シ左ノ「三點」ニ屬シテ  
ハ行政官ニ及懲戒裁判所ニ於ケル現  
時ノ意思及实例ニ徴シ明白疑ナキモノ  
ハ如シ

イ 官吏ニシテ憲法ヲ非議シ之カ変更  
ヲ計ルカ如キノ政費ニ加入スルハ其義務  
及スルモノナリトス

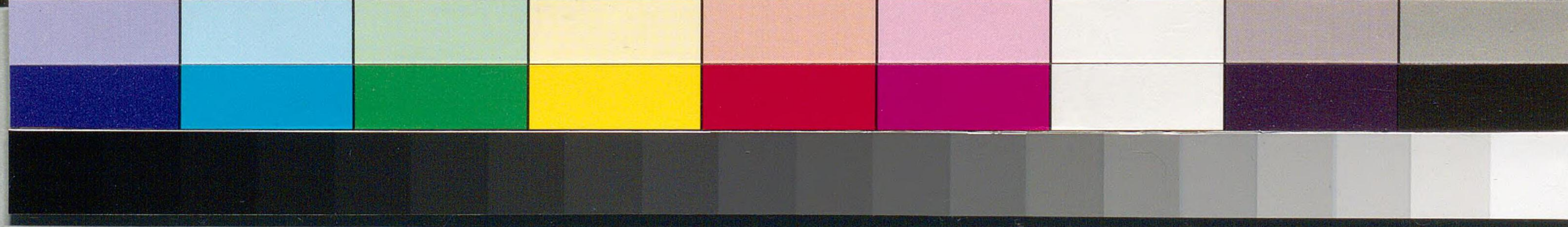
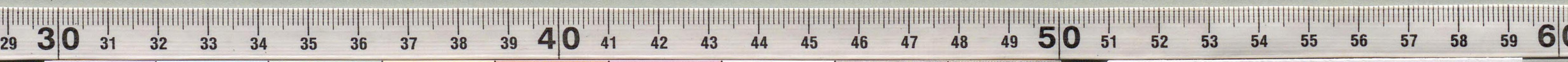
若シ官吏ニシテ社會費ニ加入シタルノ證  
跡アルトキハ社會費ノ目的タレト君主





ヲ排除シテ社會ノ現況ヲ一變セシトスルモ  
アルカ故ニ假令此者ニ於テ煽動者アル  
ノ舉動ナキモ狹隘諸國ニ在テハ忠順ノ  
義務ニ背リ大ナル者ナリトナシ直ニ之ヲ  
エテ免官セシムヘキコト明ナリトス專制  
君主政体復興ノ目的ヲ抱持セル政黨ニ加入  
スル者アルトキト雖モ原則上ヨリ視ルトキハ  
其結果亦因ニカラサル可ラス  
口 之ニ及ニ憲法ノ根底ヲシテ全クニ揺  
動セシメントスルニ非サルトキハ假令一二主要

ノ條項ニ於テ政府ト反對ノ説ヲ抱持シ其  
目的ヲ達セシカ者ノ政黨ニ加入シ運動スル  
コトアルモ敢テ官吏タル者ノ義務ニ於テ  
欠タルコトナシトハ一般ニ是認スル所ナ  
リ加之ナラスハ黨派争鬪ノ盛ナル十年以  
降ニアツテハ官吏ニテ現行法律ノ規定  
ニ関シテ嚴シク政府ニ反對ニ且ツ隱ニ代議  
政体ノ成立ヲ企圖セルカ如キノ政黨ニ加入  
スル者アルモ單ニ加入ニ止マルノ間ハ之ヲ不  
問ニ附シ懲戒上ノ處分ニ及フコトナシトス





ハ 官吏ニテ共和黨に加入シ若クハ政  
府攻撃ノ煽動者タル行爲ハ既ニ忠順  
ノ義務に違反スルモノトナス可キカ將ニ尚  
ホ未タ其義務ノ違反ヲ組段スルニ足ラ  
サルカ此ニ実ニ講方九ヲ要スルノ点ナリ普  
同ニテ憲法問題ノ喧ニカリニ六十年代ノ  
上半中ニ在ツテハ政府ハ當時ノ主義ニ在  
キ如此ノ行爲ハ忠順ノ義務ニ背キタルモ  
ノナリトセリ其理由ニ曰ク國民ノ憲法上享  
有セル權利ノ執行ハ官吏トモ其義務

ノ爲ノ制限セラルコトアラサルハ然レモ政府  
ノ施政ヲ妨ケ其不信用ヲ醸成セシカ爲シ其  
方針ニ反對スルカ如キハ官吏タル者ハ義務  
許サル所ナリト右ノ理由ニ對シテ反對黨  
ハ之ヲ博論ニ法律ノ明文ニ違反セザル政治  
上ノ運動ハ官吏タルトモ之ニ由リ等差アル可  
ラサルモノナリトセリ然レモ遂ニ裁判所ノ  
判決ヲシテ其是解ニ從ハシムルコト能ハカリ  
ニ其後官吏ノ軌轍漸次減却スルニ從ヒ  
官吏中政府攻撃ノ政論ニ覺悟スル者



アルモ政府ハ之ヲ默許スルニ至シリ然レトモ  
余ハ其事實アルノミニ依リ國家及官職ノ  
必要上發生シタル正義ノ原則ヲ為シテ  
更セラレタルニ非サルヲ信ス

千八百九十二年三月三日

政府顧問モスターフ

